

静岡・駿府城内遺跡

1 所在地 静岡市葵区追手町

2 調査期間 二〇〇七年(平19)六月～十二月

3 発掘機関 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

4 調査担当者 河合 修・大森信宏

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代中期～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

駿府城内遺跡は、弥生時代中期から江戸時代にかけての複合遺跡で、安倍川が形成した扇状地の扇頂部近くに位置する。この付近は

標高二七m前後にあり、平野部で最も安定した地域にあたる。



(静岡)

今回の調査は、静岡地方裁判所の庁舎建替えに伴うものである。検出した主な遺構は、一五世紀頃から一七世紀初頭では、近世駿府城下町の町割り方向に沿う

大溝と、これに直交する溝に規制された屋敷地がある。この中には掘立柱建物・井戸・かわらけ廃棄土坑などが配置される。一七世紀初頭以降では礎石建物・井戸・廃棄土坑がある。

木簡は、大溝から多量の箸や折敷・漆碗・獸骨・魚骨などに混じって三点(付札二、塔婆二)、一七世紀の廃棄土坑から二点(付札)、計五点が出土した。今回は、保存処理の終了した大溝出土の一点について報告する。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「く寺□米」

・「く四斗」

81×20×2.4 032

スギの板目材を用いる。上端は山形に切り取り、頭部両側に切り込みを入れる。裏面の切り込みを結ぶ位置には幅二mm程の変色部分があり、紐痕とみられる。なお、釈読にあたっては放送大学の本多隆成氏よりご教示を得た。



(河合 修)